

名稱

〔倭名類聚抄五〕加賀弘仁十四年割

〔饅頭屋本節用集天地〕加賀賀州

〔日本風土記寄語島名〕加賀玩茹

〔倭訓栞前編六〕か、明らかなる事をいへり、赫字の意也、出雲風土記に、光加賀明也とみえたり、

略○中 詞花集に、加賀國をよるこびをくはふとよめり、もと山を負ひ海に向ひて、前うちひらきた

る國なれば、風土記の意なるにや、

〔諸國名義考下〕加賀

和名抄に加賀國府在美郡名義は、日本紀略に加賀國云々、以地廣人多也とあるを思へば、赫カの國なる

べし、うちひらけたる地なればなり、又思ふに、今も此國より鏡磨師カミシあまた出るなり、鏡をも加賀

といへり、大和國城下郡鏡作を加々都カカ久利クといへる例あり、或書に、四時因有雪、以加賀故稱加賀

也といふは、字ミになづみたる妄言なり、略○中立入信友云、舊事本紀に、伊勢幡主女賀具呂姬云々、豊

受大神宮禰宜補任に、大若子命、一名大幡主命、越國荒振凶賊阿彦有天不從皇化取平爾罷止詔天

云々とあるを思へば、延喜神名式に、加賀國能美郡幡生神社とあるは、幡主ハタヌシの誤にて、加賀は賀具

呂ハより負し名なるべし、國造本紀に、加我國の次に加宜國あり、次に江沼國あり、か、れば主ヌシと生

と、又具字は宜字とは似たる字体なり、いづれか一字誤ならむといへり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

加賀金澤尾張極高三十六度三十四分半、經度東五十七分半、從東都同上○中山道自關ヶ原一百

六十八里一町二十二間半、

中山道追分經善光寺一百四十二里二十六町一十二間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地